

# ハッピー&スマイル 2号

発行者  
社会福祉法人楽寿会  
特別養護老人ホーム楽寿荘  
四倉町上仁井田字横川67  
TEL (0246)32-6381



## 震災から2年

特別養護老人ホーム楽寿荘  
施設長 佐藤英介

あの震災からまる2年経ちました。施設の建物、敷地の災害復旧工事もすべて終了、表面的には以前と変わらないはずなのに、取り戻したかに見えておりません。東南に開かれた景色と海、川から吹いてくるさわやかな風に象徴される、楽寿荘の立地するロケーションは、利用者の快適な生活にとってかけがえのない宝でした。残念ながらこの何ものにも変えがたい環境が脅かされようとしております。

一つは、目に見えない放射線量の問題が、私達の心に重くのしかかってきます。震災後、自発的に除染は行ってきましたが、緑地全般、コンクリートの割れ目、雨水排水先等のホットスポットが残されました。

## ひな祭



毎月一回の楽食の日、二月の楽食は二十八日でひな祭も近いとあって、各棟ひな祭りの飾り付けをし、お祝い膳をいただきました。毎月の楽食を楽しみにしている利用者も多く、「さけ・いくら丼、すまし汁、茶碗蒸し、イチゴミルクプリン」の料理を目でも楽しみ美味しくいただきました。

本番の三月三日のひな祭りは、お節句のお膳らしく「ちらし」飯、ハマグリのお吸い物、ウドとフキ



煮物、春菊のごまみそ和え、イチゴゼリー」おやつには甘酒とシフォンケーキも出て、女性の利用者はもちろん、男性利用者も「美味しいひな祭」を過ごすことができました。厨房の皆さん、いつも見た目もきれいで季節を感じる美味しい食事をありがとうございます。

市の説明によると、0.23マイクログラム毎時を超える福祉施設の除染計画があるとの事で、まだまだ、わたしたちは時の経過にゆだねる以外解決の術を知りません。

福島第一原発の事故は仮設工事のままならず、まだ終息しておりません。原発の再稼働は、ブレーキ故障の車を運転し続けようとしているように見えてなりません。

二つ目は千年に一度の大津波、自然の猛威にあらがうべく、海岸線一帯を7.2メートルの堤防で囲う計画が発表され、その関連で施設に隣接する仁井田川の堤防が現在よりも2.4メートル嵩上げするとの説明を受けました。

デイサービス・シヨートステイの建物の軒高までコンクリートの堤防がつけられ、遠く山々、緑、さわやかな風というせっかくの宝が、環境が失われてしまいました。

限られた生を送るわたしたちは、千年に一度に抗して数十年の寿命のコンクリートでガードする事によって失われる環境の変化という現実を甘受せざるを得ないことにとまどいを覚えています。

大地震の余震が続いております。あれから二年、揺れるたびに震源地は？震度は？テレビをつけて！が習慣になり、震度4以上にならないと驚かなくなってしまうかもしれません。

そして震災時に全国の皆様からの暖かいご支援に多々涙した事がいつも思い出されます。

震災時の非常事態に職員全員一致協力して利用者全員を無事守り抜いた自信は大きな糧となつて日々介護の現場におけるリスク管理のTPOに生かされている事を感じております。



## 豆まき

二月三日(日)、楽寿荘でも豆まきが行われました。例年は各フロア(1F・2F)毎に行っていました。今年も体調の良くない利用者もいた為、各棟毎に行われました。豆まきの時間を待ちきれず早々と鬼に扮した鬼役の職員の出現に

豆をまく前から利用者達も大喜び。今回、初登場の鬼ロボットも大活躍し大賑わいでした。終わった後は、みんなで豆(甘納豆・チョコレート)を食べ福を呼び込みました。



## 車イス寄贈

全国共済農業協同組合連合会福島県本部(JA共済連 福島)様より車椅子の寄贈がありました。福島県内の交通事故撲滅と交通事故被害者や入所者等の社会復帰支援および震災による福祉施設の環境整備支援を目的として寄贈されたものであります。

1月にデイサービスに3台、2月に特別養護老人ホーム楽寿荘に6台 マツナガ社製アルミ製車椅子(ノーパンクタイヤ仕様)が届きました。

JA共済連福島様にお礼を述べたいと思います。ありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。



## 楽寿荘 ホームページ開設!!

平成二十五年二月 楽寿荘にホームページが開設されました。これまで、発行していた新聞では、紹介しきれなかった写真や離れた家族にはあまりみせることができなかった楽寿荘新聞がみれるようになります。是非、ご覧ください。



携帯電話、スマートフォンなどで読み込んでください

http://www.rakujukai.com を直接を入力するか

検索 いわき市 楽寿会

で検索してください。